

目指す学校像（ミッション）	国際社会に貢献する、心豊かな、創造力・発信力をもったリーダーを育成する学校
本年度の重点目標	・重点目標（「探究」を深める） ・重点課題（学力の伸びを徹底し、自分の頭で「考える」を再構築していく） 学力① 人間性(こころ)： その中核(思いやり) 高度の知的な脳力 創造的思考力 学力② 狭義の学力： 世界を説明する知 基礎学力(知識・理解・技能) 学力③ 広義の学力： 創造力 発信力 好奇心 コミュニケーション力

学校自己評価							学校関係者評価（H30・4・） （保護者代表5名・学校代表3名）
評価項目	年度当初		中間評価（10月）	最終評価（3月）			意見・要望・評価等
	現状	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度	次年度の課題	
1 よりよい授業を目指す授業改善の取組み <u>授業改善</u>	<p>【PS】学力を伸ばすための手立てや探究型の授業への仕掛けを児童生徒と一緒に組み立てようと努力している。</p> <p>【S】授業によって取り組みへの差が大きくならないように、子どもと担当教員と担任とで対話をもって指導にあたっている。</p>	<p>【PS】内部・外部の授業研修を受け、探究型の授業実践やICT活用に向けての実践及び課題を見つける。</p> <p>【PS】学園研修担当者や管理職による授業参観を実施し、探究型の授業方法について具体的な課題を見つけ助言する。</p> <p>【PS】学期ごとに自身の探究型の授業実践の達成状況を自己評価し、助言をもとに改善する。</p>	<p>【PS】内部・外部の授業研修を受けながら、探究型の授業実践やICT活用に向けての実践及び課題を見つけて出している。</p> <p>【P】月に一度、授業交流会を実施し、探究型や学び合いの授業について議論し合う取り組みができつつある。</p> <p>【S】教材の見直しや教材研究に対しての視点や連携は取れてきている。</p>	<p>【PS】ICT研修が計画的に行われ、ICTを活用した学び合いの授業が実施できた。探究型授業では、知的好奇心を刺激する工夫が見られた。</p> <p>【P】授業交流に加え管理職と具体的な課題について話し探究的な学びに向けて授業向上が図られた。</p> <p>【S】児童生徒による授業評価を基に、質の高い学びを生み出している。</p>	<p>【P】B</p> <p>【S】B</p>	ICTの活用により、授業内容をディスカッション・プレゼンテーションにより一層シフトし、思考力、表現力、能力の育成に重点を置く。また、ICTを活用した家庭学習によって、基礎学力や知識について効率的な定着、習熟を実現する。また、全ての教育活動において、探究的学びを深め、読む力の一層の充実を図り、論理的思考力を高める。	<p>○ICT導入という新たな取り組みが、探究型学びを深めるための有力なツールとして機能させることを強く認識した上で、そのカリキュラムを確立させるスピード感が重要であると考えている。特に英語については、総合部らしさを念頭において授業体制の充実と確実な成果が求められていると感じる。</p> <p>○ICTを活用した授業や学びを高め、早期に全ての学年でiPadが導入されることを期待している。</p>
2 異学年齢のよさを活かしたTeamの運営 <u>Teamの充実</u>	<p>【P】Team・パーソナル、Team体育、道徳において探究的な学びを担当が仕掛けている。</p> <p>【S】話し合いにおいてテーマを設定するとともに、家庭との連絡の軸として、情報の共有のあり方を模索している。</p>	<p>【P】異学年での探究的な学びを深めるために、具体的なテーマを設定しTeam運営していく。</p> <p>【S】自ら学びへの扉（意欲）を開くために、一つのテーマを異学年で討議し合う場を設定する。</p>	<p>【P】テーマを軸にめあてを設定し、協働学習の場を多く作ることで主体的に行動する姿勢が見えてきた。</p> <p>【S】7・8年生を中心に、異学年の班活動を通して、学習だけでなく生活に関することも学び合う姿勢が取れつつある。</p>	<p>【P】テーマを支えにTeamや表現活動の中で探究的な学びを意識して行えた。</p> <p>【S】8年生のリーダーシップにより、目標（テーマ）に向かうまとまりができ、7年生にもリーダーを支える自覚が現れてきた。</p>	<p>【P】A</p> <p>【S】B</p>	<p>個の探究活動としての「パーソナル」「探究の時間」、学年の探究（体験テーマ）と併せて、Teamの探究「Teamテーマ」を三本目の柱として確立していくために、年間を通してTeamのテーマを設定し、探究活動を行うように計画したい。</p>	<p>○異学年交流の成果ともいえるべき児童生徒の自主・自律性の向上が随所に見られる。</p> <p>○7・8年生の精神的成長が異学年の活動の場にあり、リーダーシップを学ぶ場と考える。目標達成に向けたリーダーシップの育成に焦点を当てられるとよい。</p>
3 子どもたちが主体的に生活する学校生活の実現 <u>生き方の確立</u>	<p>【P】自分を大切に思う気持ちや人のためにと発想し、自ら考え行動する姿勢を育む指導や取り組みが不十分である。</p> <p>【S】規律を守り、時間を意識する行動が教員とともに少しずつ実践できている。</p>	<p>【P】「道徳」を基軸に、自己理解、他者理解を深め、心を育てるための取り組みを目指す。</p> <p>【S】児童生徒自身が学校環境を整えるために考えた方策を実践できるように教師集団の意識向上を図る。</p>	<p>【P】様々な話題提起から相手や自分の気持ちに気づいたり想像したりできるように考える時間をとることができている。</p> <p>【S】Team委員会を軸に、重点をおいて指導にあたっているが、更に具体的なテコ入れが必要である。</p>	<p>【P】子どもたち自らが気づき、考えて行動に移す流れを道徳や委員会活動に落とし込むことができた。</p> <p>【S】児童生徒会の生活目標を、日常の中で主体的に実践できるまでは、教員の継続的な助言指導が必要である。</p>	<p>【P】B</p> <p>【S】C</p>	<p>Teamでの道徳だけでなく、学年道徳の年間指導計画を作成する。その際、道徳実践力を高めるためのアクティブラーニングを中核とした計画となるよう留意したい。また、指導要録の道徳評価の準備も重要な課題となる。</p>	<p>○授業や学校生活のルール・マナーについて、子ども達が話し合い、気づかせることが必要と感じる。</p> <p>○子どもが主体にすることは、失敗の可能性が高まるが、それはむしろ期待するところ。計画→実行→評価→改善を繰り返すし、失敗の原因、解決策の検証を行ってほしい。</p>
4 子どもたちが主体的に運営する学校行事の実現 <u>主体的な活動</u>	<p>【PS】体験テーマを軸に児童生徒が自ら探究テーマに取り組むフィールドワークが確立しつつある。</p>	<p>【PS】一つの行事に向け、子どもたちの発達段階に応じためあてを設定し、見通しを持って指導にあたるよう学年団で連携し支えていく。</p>	<p>【PS】行事に対して、一人一人が役割意識・責任を持って取り組めるように、個に働きかけることができている。</p>	<p>【PS】学年の発達段階に応じ、一人一人が自己の役割を自覚して課題に取り組むことができた。</p>	<p>【P】A</p> <p>【S】B</p>	<p>開智発表会の主なテーマを探究と表現に絞り込み、探究活動の深まりと表現活動の充実により年間を通して取り組むみたい。</p>	<p>○各種行事の更なる進化を目指すとともに、行事を通して、行事に対する思いや責任を上級生の姿勢から学ぶ貴重な時間となるよう今後も期待している。</p>